



大洲高校 PTA 月報

令和3年2月号

会員寄稿

Overcome Your Limits! 2学年主任 伊豫田 孝幸

2学年は「Overcome Your Limits!—自分の殻を打ち破れ—」を学年テーマに掲げ教育活動を行ってきました。生徒は「未見の我」（自分の中に眠っている未知なる自分）に出会うべく、様々な場面でチャレンジを続け大きな成果を上げてくれました。

さて、来年度はいよいよ3年生。自らの進路目標に真剣に向き合わないといけない一年となります。学年団としては3学期を「3年生0学期」として、受験生になるための助走期間と位置づけ指導をしております。先日も「総合的な探究の時間」（良知）に「大学入試の仕組みを理解しよう!」と題してアクティブ・ラーニングを実施しました。今回はその内容を保護者の皆様と共有したいと思います。

○共通テストとは

「大学入学共通テスト」は「大学入試センター試験」の後継にあたる試験で、来年度は令和4年1月15日(土)、16日(日)に実施されます。国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも「共通テスト利用方式」を設定しています。出題はマーク式。共通テストでは特に知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力を発揮して解くことが求められる問題が出題されます。出題科目は国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語の6教科30科目で構成されます。ちなみに1日目は、9時30分より18時10分まで、2日目は9時30分より17時50分まで受験するという、学力のみならず気力や体力まで必要とされる試験となっています。

○共通テストと2次試験で決まる国公立大学入試

大学入試を大きく分けると、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」がありますが、一般選抜の募集人員枠が全体の約8割を占めています。国公立大学の一般選抜は共通テストの得点と大学別に実施される「個別学力検査」の得点の合計で合否を判定するケースが一般的です。各大学で実施される個別学力検査は2月下旬から行われます。個別学力検査は「前期日程」「後期日程」の2つの日程に募集人員を振り分けて選抜する「分離・分割方式」で実施されます。第1志望校は前期日程で受験するのがセオリーとなっています。

○拡大する学校推薦型選抜と総合型選抜

学校推薦型選抜は一般選抜に次ぐ規模の選抜方式で、国公立大学では全体の9割以上の大学が実施しています。一般選抜との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点です。学校推薦型選抜は大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれます。公募制は、大学の出願条件をクリアし、出身高校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の指定校制は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜です。国公立大学の学校推薦型選抜は、私立大学に比べて募集人員が少なく、出願条件も「学習成績の状況4.0以上」など厳しい成績基準が設けられています。私立大学の学校推薦型選抜は入学者比率が40%以上を占めており、一般選抜と並ぶ私立大学入試の大きな柱といえます。

総合型選抜とは、エントリーシートなど受験生からの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。従来入試方式と比べると、「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。なお、入試の仕組みの詳細については学習済みの生徒にお尋ねください。

以上、大学入試の仕組みを瞥見^{べっけん}しました。来年度は2年生で蓄えた力をもとに自分の殻をさらに打ち破り、さらなる高みを目指して大きく飛躍する一年として欲しいものです。